

【児童への話】

3月も半ばに入ります。今はスギ花粉がすごいので、校長先生はかなり目と鼻がキツイです。でも、学校周辺や校庭の自然の様子が、どんどん春めいてきて、とても嬉しい時期です。

さてみなさん、春という言葉聞いてイメージする「色」は何ですか？校長先生は春と聞くと、やわらかいピンク色が浮かんできます。同じく、ピンク色を連想した人は多いのではないのでしょうか。やわらかいピンク色と言えば桜、桜と言えばソメイヨシノ、ソメイヨシノは東京都の花です。江戸時代、今の豊島区にあった染井村の植木屋さんが「吉野桜」という名前で売り出したのが、その名前の由来とされています。校長先生のお家では、桜が咲くと、お弁当を持って近くの河川敷に行き、家族皆でワンコも一緒に大きな桜の木の下でお花見をします。桜は、うすピンク色の花が咲き、そしてサッと散っていく、日本的なイメージのとても強い樹木です。

ところでみなさんは、「桜染め」という染め物を知っていますか？桜からとった液に白い布を浸すと、布がとても柔らかなピンク色に染まります。昔からの伝統的な染め物です。

この桜染めは、ピンク色の桜の花びらを使うと思っている人が多いのですが、実は違います。桜染めに使う原料は、桜の茶色く見える「枝」や「木の皮」を何度も煮て作るのです。桜の木は、花だけでなくその枝や皮まで美しいピンク色を持っていて、全身で春の訪れを表現している、ということです。桜って、不思議ですね。

桜は昔から人々に愛され、江戸時代、厳しい身分制度があったにも関わらず、武士、農民、町人などの身分に関係なく、みんな一緒に平等にお花見をしたと言われていています。桜は平等、平和の象徴でもあったのです。

そんな桜の今年の開花予想は来週の17日頃、満開予想は再来週の25日とされています。25日は卒業式です。美しく咲き誇る桜が、6年生の門出をお祝いしてくれることでしょう。落五小の全員が平等や平和の心をもち続けられるよう、日々を大切に過ごし、桜の花が咲き誇るのを楽しみに待ちましょう。今日は、「春の訪れと桜」についてお話ししました。

【本講話について】

校庭や妙正寺川にかかる桜のつぼみが膨らみ、咲く準備をしています。満開予想は3月25日水曜日頃です。6年生の卒業を、春の代名詞である桜が満開で祝福してくれるという最高のシチュエーションとなりそうで、嬉しい限りです。

本年度の教育活動は、残すところあと12日間です。学習、生活の本年度の振り返りを行うとともに、これから始まる令和8年度の学校生活に明るい希望がもてる日々にしていけるよう、子ども一人一人への声かけを重ねていきます。ご家庭でも、お子さんが来年度頑張りたいこと、楽しみなことなどを話題にいただき、明るい希望をもって進級・進学ができるようにしていただけると幸いです。